

道徳

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066577

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



特別の教科 道徳

谷口 仁

松田 剛

服部 浩司

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

本校では、学校教育目標「自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する」の下に道徳教育の重点目標を「自分を律しつつ、自分に関わる人の思いに気付き、思いやりの心を持ち、他者との相互理解を図りながら、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てる」としている。

昨年度から「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成—STEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトの作成を目指して—」という研究主題の下に、研究実践に取り組んでいる。この主題の達成に向けて、特別の教科道徳では「真理の探究，創造」，「よりよく生きる喜び」の二つの内容項目が、本研究において育成を目指す資質・能力との関連が深いと考え、教育課程の中で重点的に位置付けて、実践に取り組むことにした。9つの教科や学校保健，総合的な学習の時間，学校行事等と関連させながら，教科等横断的なカリキュラムの開発を目指して取り組み，それらの学習を通して，Society5.0を主体的に生きるための資質・能力を育み，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てたい。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

「考え，議論する道徳」を目指して，生徒の姿を教師が的確に捉えられるように全校共通のノート教材を用い，授業ごとに記録を取らせることとした。ノート教材に書かれた「教材や友達・先生の話から，自分の考えを深めることができた」，「学んだことをこれから生きていく中で大切にしたいと感じた」，「今日の授業は考えさせられた」の三つの項目において，当てはまるかどうかを四段階で表す欄と，

STEP	3	思ったこと・考えたこと	
			●教材や、友達・先生の話から、自分の考えを深めることができた。 😊 A B C D 😊
			●学んだことをこれから生きていく中で大切にしたいと感じた。 😊 A B C D 😊
			●今日の授業は考えさせられた。 😊 A B C D 😊

ノート教材より

また，道徳の授業を担当のみが行うのではなく，各学年所属の教師も授業を行う計画を立てた。全クラスの授業を同じ教師が行うことによって，一つの教材の準備にかかる時間が十分に取ることができ，先行した学級の生徒の反応に応じて発問や授業構成を調整し，改善していくことができた。

本研究の実践に当たり，特別の教科道徳では Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力として「イノベーターのマインドセット」，「より良く生きようとする態度」の育成を図ることにした。この二つは，より良く生きるための基盤となる道徳性を養うという道徳の目標と合致しており，前

述した「真理の探究，創造」，「よりよく生きる喜び」の内容項目との親和性が高いと考えた。本校が定める資質・能力と道徳における内容項目をふまえ，以下の実践に取り組んだ。

一年生は，「真理の探究，創造」の実践に取り組んだ。本実践は，電機会社を営みながらロケット開発に取り組む植松努さんの，夢をあきらめないことの大切さを伝えるエッセイを通して，自己の未来を切りひらく原動力となる探究の精神を養うことをねらいとしている。入学して間もない一年生は，創造デザイン科をはじめとし，新しい知識や技能を獲得することへの好奇心や意欲が高い。新しい考えや方法を生み出し，新しい分野を積極的に切り開こうとする意欲や姿勢は，本校が定める資質・能力の「イノベーターのマインドセット」と合致するものである。疑問や問いを探究し続けることが，社会だけでなく自分の生涯を豊かにすることにつながることを，生徒自身の体験を振り返りながら考えられる実践とすることを試みた。

二年生は，「よりよく生きる喜び」である。本実践は，主人公であるエイミーが，勝ちたいという思いからドーピングをし，勝利するが，女子 100M，200Mの二冠達成後にドーピングしたことを公表するという話を通して，「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることに喜びを見いだす」ことをねらいとしている。

ありのままの人間は，決して完全なものではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。自分を律することができず怠けてしまったり，してはいけないと知りつつ意地悪なことをしてしまったりすることもある。しかしながら，人間には自分の辛さを越えて互いに相手を思いやる尊い心がある。

「本当にそれで良いのか」と自らに問い掛ける「良心」の声に悩み，葛藤しながらも自分の弱さや醜さを乗り越えたときの晴れやかな気持ちに気付かせ，前向きに生きようとする心情の育成を試みた。

三年生は，「真理の探究，創造」である。本実践は，インスタントラーメンの開発者である安藤百福さんが，インスタントラーメンの製法を完成させた実話を通して，「真実を大切にし，真理を探求して新しいものを生み出すために努力しようとする意欲を育てる」ことをねらいとしている。教師用指導書には「疑問や問いを探求し続けることが，新たな見方や考え方の発見や創造につながり，自分自身の生涯を豊かにすることに気づかせたい」とある。この「真理を探究して新しいものを生み出すために努力しようとする意欲」は，イノベーターのマインドセットに当たり，疑問や問いを探求し続けることを自分自身の生涯の豊かさにつなげていくことが「より良く生きようとする態度」の育成につながると考えられる。そのため，本研究では，本実践のねらいにせまる学習指導を通して，本校が定める **Society5.0** を主体的に生きるための資質・能力である「イノベーターのマインドセット」と「より良く生きようとする態度」の育成を試みた。

また，技術・家庭科技術分野では，設計（デザイン）を学習する。設計のプロセスは，ものづくりだけでなく，様々なものに応用でき，人生設計（ライフデザイン）もそれにあたる。そのため，本実践の終盤では「真理の探究」の真理を「人生の真理」と置き換え，本実践で学んだことを「自己の人生をより良く生きるための探究」に当てはめ，「より良く生きようとする態度」の育成を促す工夫を試みた。

（２）関連・連携を図った教科等について

道徳教育としては，全体計画と年間指導計画を作成し，学年ごと，教科ごとの関連を図り，生徒指導や教育相談，学校行事等とも連携して取り組んでいる。

3. 成果と課題

一年生では、本校が定める資質・能力のうち、「イノベーターのマインドセット」に着目し、実践に取り組んだ。「『どうせ無理』という言葉に負けない」の授業において、自分や身の回りで諦めてしまいそうになった体験を基に自身を振り返る活動を行った。夢をあきらめない植松努さんの姿勢から、生徒たちはあきらめずに取り組むことで得られるものは何かについて考えを深め、見方を変えながら挑戦し続けることの意義について考えることができた。

○生徒の感想

- ・もうダメそうなとき、気づいたら「どうせ無理」と思っていました。可能性が可能性を生むと思ったので、向上心を忘れず頑張りたいです。
- ・無理かもしれないと思って迷うことが多かったけど、自分が挑戦することで周りにも勇気や挑戦する気持ちをあげることができるかもしれないと思いました。
- ・すぐ諦めるのではなく、何か自分の力でできることはないかを考え、実行に移すことが大切。たとえできないことでも1ミリだけでもいいから良い方向にしようとする行動が大切だと思った。
- ・「やったら損だからやらない」と可能性を否定せず、「やらないと損だ」と思うようにして、成功を求めることが大切だと思いました。

二年生では、「より良く生きようとする態度」の内容項目に着目して実践を行った。「本当の私」を題材に、悩みながらも自分の弱さ・醜さを克服したエイミーの姿を通して、人間として誇りを持って気高く生きていこうとする意欲を育てることをねらいとした。その結果、生徒の感想文からは自分の弱さや醜さと向き合いながらも、「本当にそれで良いのか」という良心の声と葛藤していく記述が多く見られた。このことにより、本実践は「より良く生きようとする態度」の育成において効果的であったと考えられる。

○生徒の感想

- ・自分が必ずこのようにドーピングを告白できるとは思わないけれど、自分の気持ちと誠実さの折り合いをつけたいと思った。
- ・ずるをせず、「正しい」行いをするのは難しいと思っていた。しかし、「正しい」というのはいろいろなものさしがある中で自分の後悔のないように生きることなのだ分かった。
- ・もし私がエイミー選手だとしても、本気で戦ってくれる「相手のため」、自分がこれから後悔しない「自分のため」にも告発すると思います。
- ・自分に正直に自分の良心に従って生きることが大切だと思った。自分の行動を客観的に見て、自己分析することも必要だと思う。

三年生では、技術・家庭科技術分野と連携し、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力である「イノベーターのマインドセット」と「より良く生きようとする態度」の育成を試みた。その結果、生徒の感想文からは「自分の人生をより良く生きるためのヒントを本実践から見出そうとする意識」や「挑戦することや常識にとらわれないこと、好奇心、探求心を大切に思う意識」が見られたことより、本実践は「イノベーターのマインドセット」と「より良く生きようとする態度」の育成に寄与すると考えられる。

○生徒の感想

- ・これからの人生を生きていくうえで、困難を乗り越えるためには「あきらめないこと」「沢山失敗して新たなアイデアを生み出すこと」が大切だと感じた。
- ・真理を探究し、新しいものを生み出すためには「何度でもやってみる」「常識にとらわれないこと」が大切だという意見が出て「なるほど」と思った。今日の授業が、自分について考えるきっかけとなった。
- ・自分の将来へのアドバイスをもらったようで楽しかった。チャレンジ精神を忘れずに生きていきたい。
- ・今回授業を受けて、新しいものを生み出すために何が必要なのか考えることができました。今回得られたことが創造デザイン科など、様々なところで役に立つと思うので、大切にしたいです。
- ・日々をただ過ごすのではなく、常に好奇心・探求心を持って過ごすことで、自分の人生がより良くなると思いました。

実践事例

教科名「道徳」・学年「1年」

授業者	谷口 仁	授業クラス	1年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
		理科「科学技術と人間」 技術「エネルギー変換の技術」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「イノベーターのマインドセット」		A-(5)真理の探究，創造	
STEAM教育の視点			
<p>特別の教科道徳は、STEAM教育におけるA（Liberal Arts）に該当する。STEMに加わったこの領域は、理工学系の分野に対してその価値や本質を見定めるための資質や意欲を養う重要な教科であると考えられる。</p> <p>本実践は「真理の探究，創造」をねらいとしている。新しいものを創造する上で困難や失敗に直面したときの心構えや、挑戦し続けることの意義を考えることは、「失敗してもいいからひとまずやってみる」という「イノベーターのマインドセット」と合致している。「どうせ無理」と考えた体験と照らし合わせて考えることで、「ひとまずやってみる」という考え方やこれからの自分の在り方まで具体的に考えさせる。</p>			
本時の授業のねらい			
新しいものを創造しようとする植松努の姿を通して、真理を探究し、自分の未来を切りひらこうとする意欲を育てる。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 「どうせ無理」という言葉について意見を聞く。 ・「どうせ無理」と思ったことや、周りの人が言っているのを聞いたことはないか、Google JAMボードを使って交流する。			10
2. 「『どうせ無理』という言葉に負けない」を読む。			7
3. 初めてロケットづくりの話聞いたときは、きょとんとしていた会社のメンバーが、ロケットを作ろうとするようになったのは、なぜだろう。			8
4. 作者が「どうせ無理」という言葉に負けたくないのはなぜだろう。			10
5. 「どうせ無理」を乗り越えた先にあるものについて考え、話し合おう。 ・「どうせ無理だと思っていたこと」や、「新しいこと」を求めていくと、その先に何があるだろう。			10
6. 本時を振り返る。			5

実践事例

教科名「道徳」・学年「2年」

授業者	松田 剛	授業クラス	2年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
		保健体育（保健分野） 「健康な生活と疫病の予防」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「より良く生きようとする態度」		D-(22)よりよく生きる喜び	
STEAM教育の視点			
<p>本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力である「より良く生きようとする態度」とは、自己実現や理想の社会に向かおうとする態度のことであり、実社会とつながりのある学習を行うことで効果的に育成されることが示唆されている。STEAM教育は、実社会の課題解決を学習内容に取り入れることが求められるため、本教材は主人公であるエイミーの姿を他人事ではなく自分自身に照らして考えることが必要であると考え。教材の中で終わるのではなく、自分がこの立場であったらという問いを大切に、他者の多様な考え方に触れる中で自分なりの解を見つけさせていきたい。</p>			
本時の授業のねらい			
<p>悩みながらも自分の弱さ・醜さを克服したエイミーの姿を通して、人間として誇りを持って気高く生きていこうとする意欲を育てる。</p>			
授業の流れ・活動等			時間
1. 前時の学習を振り返る。 ・人間は弱さと強さが入り混じっている存在であることを確認する			5
2. 導入 ・ドーピングについて知っていることを確認する。			5
3. 「本当の私」の範読を聞く。			5
4. 資料について考える			30
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中心発問：ドーピングを認める発表に、エイミーを向かわせたものは何だったのだろう</p> </div> <p>・まず、自分の意見をしっかりと持たせ、その後、グループになって意見を交流する。 ・グループで出た意見を発表させ、問い返しなが、適宜「黙っていればバレなかったかもしれないのに、なぜドーピングを認めたのだろう」という補助発問をする。</p>			
5. 振り返り ・「自分を信じて生きるとは、どのようなことだろう。」というテーマで文書を書く。			5

実践事例

教科名「道徳」・学年「3年」

授業者	服部 浩司	授業クラス	3年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
		技術「設計」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「イノベーターのマインドセット」 「より良く生きようとする態度」		A-(5)真理の探究，創造	
STEAM教育の視点			
<p>特別の教科道徳は，STEAM教育のA (Liberal Arts) に該当するものであり，STEAM教育で取り組む問題解決を支える態度や意欲を育成するだけでなく，問題解決の方向性を定める心情を育成するためにも重要な教科である。本実践は「真理を探究して新しいものを生み出すために努力しようとする意欲を育てる」をねらいとしている。これは問題解決を支える態度である「イノベーターのマインドセット」に当たると考えられる。</p> <p>また，「真理の探究」について考えさせることは「どのように生きていくのか」という生徒自身の生き方の探究にもつながることであり，これは「より良く生きようとする態度」に当たると考えられる。技術分野で学習する「設計」の過程は，「人生設計」にもつながるものである。そのため，本時の終盤では「真理の探究」を自分の人生に当てはめ，より良く生きていくための人生設計についても考えさせる。</p>			
本時の授業のねらい			
新しいものを開発するために追究を続ける安藤百福の姿を通して，真理を追究して新しいものを生み出すために努力しようとする意欲を育てる。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 「真理の探究」とは何かを考える。 ・「真理」とは何かを考えさせることを通して，探求し続けることの大切さに気づかせるとともに，本時の授業を「どう生きていくのか」を考えるきっかけにしてほしいことを伝える。			10
2. 教師の範読の下，資料を読む。			10
3. 「（お湯があれば，）誰でもすぐに食べられるラーメンを作ろう。」と思った理由を考える。 ・ラーメンを選んだ理由には，「人々を幸せにしたい」という思いが込められていることに気付かせる。			5
4. 「困難を乗り越えるために必要なことは何か」を考える。 ・「くじけない心」などの「気持ち」だけでなく，実際に行動していくことの重要性にも気付かせる。			10
5. 「真理を探究して新しいものを生み出すために必要なことは何か」を考える。 ・4. と同じ内容になってもよいから，本時の学習を受けて考えていることを発言させる。			5
6. 「自分の人生を探究していくために必要なことは何か」を考える。 ・人生も真理と同じで，様々な経験を積むことで「自身が定めるより良い生き方」は変化していく。大切なことは，考え続けることと，自分の人生を価値あるものにするという気持ちであることに気付かせる。			10